

| | | | |
|---------|---------------------------------------|----------|---------|
| 氏名 | 小 塚 明 子 | | |
| 授与した学位 | 博 | 士 | |
| 専攻分野の名称 | 医 | 学 | |
| 学位授与番号 | 博 乙 第 2714 号 | | |
| 学位授与の日付 | 平成6年3月25日 | | |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当) | | |
| 学位論文題目 | 気管支喘息におけるInterleukin-2 receptorに関する研究 | | |
| 論文審査委員 | 教授 中山 睿一 | 教授 太田 善介 | 教授 辻 孝夫 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、気管支喘息の病態、特に重症難治化におけるT細胞の関与が注目されている。その病態との関与を解明する目的で、T細胞活性化の指標として血清中のsoluble form interleukin-2 receptor (sIL-2R) を測定した。その結果、気管支喘息患者では健康人に比べ高値を示し、本症におけるT細胞の関与が強く示唆された。さらに、病型別検討ではアトピー群と非アトピー群との間に差を認めず、重症度別の検討でも差は認められなかったが、ステロイド依存群ではステロイド少量投与群に比しsIL-2Rが高く、一方、ステロイド大量投与群ではむしろ低下していた。またIL-2R陽性helper-T細胞比率と血清中sIL-2Rの間には強い正の相関が認められた。

以上、T細胞機能を示す血清sIL-2Rは喘息病態に関与し、しかも、アレルギー性炎症病態の指標として有用であることが示された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、気管支喘息患者血清中の可溶性インターローキン-2受容体 (sIL-2R) の量的変化について検討したものである。研究結果は、気管支喘息患者のsIL-2R量は健常者に比べ高値を示し、IR-2R陽性CD4T細胞比率とよく相関した。このことは、気管支喘息におけるT細胞の関与を示唆した重要な知見と考え、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。